教 育 記 念 講 演 者

年　度	講 演 者	演　　題	講 演 時 の 所 属
昭和59年度	伊藤裕康	学童検診時に多くみられる不整脈とその　　〝対策〟	第2内科
	広瀬光男	動脈硬化性外科的疾患について	第1外科
昭和60年度	井口恒男	岐阜県における地域医療について	岐阜県環境衛生部長
	鶴見介登	非ステロイド抗炎症薬の副作用	薬理学
昭和61年度	北澤克明	眼科領域に於けるレーザー治療の現況	眼科学
	松波謙一	随意運動中のサルの脳内活動部位 ー2-DG法によるー	反射研究施設
	松永隆信	変形性股関節の病態と治療	整形外科学
昭和62年度	森　秀樹	消化器癌の発生におよぼす環境性因子	病理学第1
	若林慎一朗	自閉症研究の歴史と発展	神経精神医学
	松田　朗	厚生行政の将来動向	厚生省保険医療局課長
昭和63年度	玉舎輝彦	女性と性ステロイド	産科婦人科学
	野間昭夫	高齢層における臨床検査の正常値について	臨床検査医学
	岩田弘敏	産業保健と地域保健	衛生学
平成元年度	清水弘之	日系米人のがん罹患率に関する最近の知見	公衆衛生学
	宮田英雄	めまいの診断と治療	耳鼻咽喉科学
	河田幸道	当教室における腎移植の現況	泌尿器科学
	広瀬　一	過去1年間岐阜大学第1外科における心臓血管外科の経験	第1外科学
平成2年度	江崎孝行	DNAを使った感染診断法の迅速化	微生物学
	恵良聖一	血清アルブミンの構造・機能及びその病態	第2生理学
	土肥修司	心肺蘇生中の循環動態とモニタリング	麻酔学
	佐治重豊	教室における胃ガン治療成績の進歩	第2外科
平成3年度	高見　剛	病理学における免疫組織化学の有用性と限界	病理学第2
	伊藤和夫	中枢神経系における神経活性物質の可塑性	解剖学第2

平成4年度	片桐義博	ピリドカルボン酸系抗菌とフェンブフェン併用時の薬物動態	薬剤部長
平成5年度	小出浩之	妄想の三つの源	精神神経医学
	高橋優三	医学研究における組織化学	寄生虫学
	渡辺邦友	細菌の化学療法薬耐性について ー嫌気性菌を中心にー	嫌気性菌実験施設
	正村静子	上皮小体の血管構築そしてヒトの腹腔動脈　ーミクロの世界とマクロの世界ー	解剖学第1
平成6年度	岡野幸雄	細胞内情報伝達機構 ー病態にも関連してー	分子病態学
	安田圭吾	副腎皮質ステロイドと耐糖能	内科学第3
	藤原久義	Ischemic pre-conditioningについて	内科学第2
	北島康雄	表皮水疱症と類天疱瘡の分子細胞生物学的発生機序	皮膚科学
平成7年度	近藤直実	アレルギーと免疫不全	小児科学
平成8年度	森田啓之	体液恒常性維持における肝臓の役割	生理学第1講座
平成9年度	清水克時	骨・関節におけるカルパインの研究	整形外科学講座
	立松憲親	下顎の再建	口腔外科学講座
	坂井　昇	脳幹病変の外科	脳神経外科学講座
	粕谷志朗	環境とアレルギー・感染症	地域環境講座
平成10年度	森脇久隆	肝癌の臨床と発癌予防	内科学第1講座
	松岡敏男	スポーツ医科学の研究方向の将来	スポーツ医・科学講座
	星　博昭	占拠性肝疾患における画像診断とIVR	放射線医学講座
	清島　満	アポリポ蛋白の機能について	臨床検査医学講座
平成11年度	出口　　隆	前立腺癌におけるmolecular stagingの現状	泌尿器科学
	石塚達夫	糖尿病の成因と合併症の発症機構	総合診療部
	伊藤八次	平衡訓練による体平衡と運動機能向上	耳鼻咽喉科学
平成12年度	犬塚　　貴	高齢医療と神経内科	高齢医学講座
	中島　　茂	細胞死のシグナル伝達メカニズム	生化学講座
	紀ノ定保臣	情報を処理することの意義について	医療情報部
平成13年度	山本哲也	眼科学講座の歩みと21世紀への展開	眼科学講座
	國貞隆弘	発生学から再生医学へ	衛生学教室
平成14年度	鈴木康之	小児科臨床遺伝病研究、そして医学教育へ	医学教育開発研究センター

	柴田敏之	南の国の人々が教えてくれること ー南の国の口腔がん事情からー	口腔外科学講座
	中川敏幸	神経変性機構の解明と治療への応用を目指して	高次神経・反射部門
	小澤　修	急性冠症候群における新たな知見	薬理病態学分野
平成15年度	武内康雄	法医解剖、法医病理学的研究、そしてそれらの成果の大学教育や社会への還元を目指して	法医学
	武田　純	遺伝子異常による糖尿病	内分泌代謝病態学
	安達洋祐	これからの外科医	腫瘍総合外科
平成16年度	岩間　亨	ブレインアタックとの戦い	脳神経外科学
平成17年度	下澤伸行	代謝病におけるゲノム・プロテオーム解析　ー基礎と臨床の架け橋にー	総合研究支援センターゲノム研究分野
	山本眞由美	医療におけるクオリティーマネージメント　ー生活習慣病を中心にー	保健管理センター
	桑田一夫	構造生物学に基づく分子手術法　ー立体構造異常による難治疾患の治療薬開発に向けてー	人獣感染防御研究センター
平成18年度	藤崎和彦	世界的な医学教育改革の動向と岐阜大学医学部医学教育開発研究センターの役割	医学教育開発研究センター
	永田知里	乳がんの免疫　ーリスクファクターの探求	疫学・予防医学
平成19年度	恵良聖一	生体系の水構造の基礎研究からMR・分子イメージング法の開発へ	分子生理学
	江崎孝行	感染症法に対応した迅速な遺伝子診断支援システム	病原体制御学
	伊藤善規	がん化学療法への係わり	臨床薬剤学
平成20年度	湊口信也	心血管再生医学と医療	循環・呼吸病態学
	小倉真治	近未来の救急医療体制	救急・災害医学
平成21年度	竹村博文	心臓大血管手術の最前線	高度先進外科学
	深尾敏幸	遺伝子診療と〝遺伝性〟疾患の研究	医療情報学
	吉田和弘	２１世紀の腫瘍外科医がめざすもの	腫瘍外科学
平成22年度	丹羽雅之	ヒト好中球の活性化と細胞死	医療情報学
	原　　明	再生医療の手がかりとしての奇形腫の解析	腫瘍病理学
平成23年度	清島眞理子	難治性皮膚疾患治療最前線	皮膚病態学
	森重健一郎	婦人科悪性腫瘍治療における妊孕性温存の可能性	産科婦人科学

	塩入俊樹	パニック障害の病態：Stress-induced fear circuitry disordersを中心に	精神病理学
平成24年度	飯田宏樹	術前禁煙の意義	麻酔・疼痛制御学
	長岡　仁	遺伝子に抗体記憶を刻む分子AID：その光と影	分子病態学
平成25年度	大沢匡毅	Notchシグナルによる組織幹細胞維持機構	生命機能分子設計
	千田隆夫	APCがん抑制遺伝子　ーその多彩な発現と機能ー	解剖学
平成26年度	山口　瞬	遺伝子工学を利用した脳機能イメージング：脳の活動を神経細胞レベルで観察する	高次神経形態学
	竹内　保	クロマチン再構成因子複合体異常のもたらす腫瘍発生メカニズムと、それに対する探索病理	形態機能病理学
	前川洋一	Notchシグナルによる免疫制御-免疫記憶現象の解明による寄生虫感染ワクチンの開発ー	寄生虫学・感染学
平成27年度	清水雅仁	肝臓癌を予防するー基礎・臨床研究からみえてきた可能性ー	消化器病態学
	村上啓雄	岐阜県の医師確保と岐阜県医師育成・確保コンソーシアム	医学部附属地域医療医学センター長
	秋山治彦	人工股関節再置換術における臼蓋・大腿骨骨欠損再建術の開発研究	整形外科学
平成28年度	加藤善一郎	構造医学	連合創薬医療情報研究科
	森田浩之	脂肪細胞分化・増殖に関する研究	総合病態内科学
平成29年度	松尾政之	岐阜県における放射線診療の現状	放射線医学
	土井　潔	器質的僧帽弁逆流症に対する弁形成術後の僧帽弁狭窄：運動負荷心エコーを用いた評価	高度先進外科学
平成30年度	永 井 宏 樹	レジオネラ症をめぐる新展開	病原体制御学分
	下 畑 享 良	知っていただきたいパーキンソン病診療のポイント	神経内科・老年学
	岩 田　尚	最先端の肺がん外科治療を目指して	呼吸器外科
令和元年度	矢部大介	糖尿病食事療法の温故知新	内分泌代謝病態学
	大倉宏之	様変わりしてきた心アミロイドーシスの診断と治療	循環病態学
令和2年度	古家琢也	泌尿器科疾患におけるロボット手術の役割	泌尿器科学
	道上知美	現代の死因究明-死亡時の病理病態分析	法医学
令和3年度	小川武則	頭頸部がん治療の今までとこれから	耳鼻咽喉科学
	牛越博昭	岐阜県の地域医療の現状と課題　～今後の方向性～	地域医療医学センター
令和4年度	任　書晃	医工連携を通じた次世代生理学研究	生理学
	大西秀典	構造生物学的視点からの免疫異常症の病態理解と治療法開発	小児科学

	坂口裕和	糖尿病網膜症診療　令和4年版	眼科学
	西城卓也	これからの医学教育	医学教育開発研究センター
令和5年度	山田陽一	臨床応用の進む再生医療	口腔外科学
	岩田浩明	水疱症の診断と治療	皮膚科学
	紙谷義孝	これからの麻酔科医の役割ー働き方改革を目前に控えてー	麻酔科・疼痛医学